

「子供の森」計画と 生物多様性

TOPIC

文：大崎絵美
(オイスカ本部国際協力部「子供の森」計画担当)

2010年は国連が定めた
国際生物多様性年です。
そして、10月18日からは
生物多様性条約第10回締約国会議
(COP10)が名古屋で開催されます。
世界各地で植林活動と
子どもたちへの環境教育を行ってきた
オイスカの「子供の森」計画は
生物多様性保全にどのような役割を
果たしているのでしょうか。

CFPと生物多様性の かわりとは？

オイスカの「子供の森」計画
(Children's Forest Program、
以下CFP)がスタートして
から2011年で20年を迎え、
活動は、2010年3月末までに
26カ国の4166校にまで広がっています。

CFPにおける生物多様性保全の取り組みとは何か、そして
これからの時代に生きる子どもたち
にとって必要なCFPの在り方とは何か。CFPの
実施に長年携わり、活動の発展に
深くかかわってきたオイスカ・タイ
総局見原アイサ事務局長と
フィリピン・ミンダナオ・エコ
テック研修センター池田広志所長に
次の質問を問いかけてみました。

● CFPの歴史を振り返り、
生物多様性とのかわりを
教えてください。

● 生物多様性の危機、環境
の時代ともいわれるこれからの
時代に、CFPが果たすべき役割は
何だと思えますか？

オイスカ・タイ総局 見原アイサ事務局長からの返信

今まで行ってきたCFPの活動のすべてが生物多様性につながっていると言えと思っています。荒野となった土地に、子どもたちが中心となり木を植え、育てて森をつくる

と、自然はその活動に少しづつ応え、木々の根元にキノコが再び生えたり、昆虫や鳥が戻ってきたりします。小さいながらも森を基軸とした生態系が築かれ始めるのです。さらにタイでは、子どもの教育を重視し、人と森のかかわりや、その森の生態系と人のかかわり方を学習できるよう、森の中の食物の栽培や養殖にも取り組んできました。身近な場所に生態系が増えていくことや多くの動植物とともに暮らす環境をつくっていくことなど、CFPを通して行っていることすべてが生物多様性についての理解を深めて保全する活動とも言えるのです。

これからさらに深刻になると予測される環境問題の一つに、人口増加に伴う森林伐採が挙げられます。森を減らさ



森の中でキノコを発見(タイ)

ずに人と森とが共存できる社会のために、これからもCFPを通じて多くの子どもたちに生物多様性についての教育を行っていきたいです。人も自然によって生かされている生態系の一部であり、それを大切に守っていくことにより、恩恵を受けながら生きていくことができることを教えていきたいです。

今、タイでは活動の一つに有機農業を取り入れていきます。子どもたちが自分の食に関心を持ち、食物を生産する方法を取得し自然とともに生きる力をつけるためです。CFPはたとえ研修センターがなくてもあらゆる場所で次の世代を育てていくことができます。「子どもの心に木を植える」という言葉をいつも活動の根幹に置き、これからも多くの場所でCFPを広げていきたいと思っています。

フィリピン・ミンダナオ・
エコテック研修センター
池田広志所長からの返信



私がCFPでやってきたことは、ふるさとづくり、そして夢のある子どもの教育です。子どもたちは自分たちの植えた木に愛着を持って育てることで、その木や森を大人になっても大切に思うでしょう。その森のふもとでは、安定した水があり農業ができ、木陰に住む場所ができ、果実をはじめとした食糧を得ることができ、樹木や草から生活に必要な資材や道具をつくることができる。するとその森を中心にさまざまな人が集まり、村ができる。そのようにして、自分たちの愛着のある「ふるさと」をつくることができたとわけてです。このふるさは、まさに森の生物多様性のもとに成り立っていて、CFPはこの森の生物多様性を取り戻し育んでいく活動とも言えるのです。

そして子どもたちには、大きな目標を持って活動をしてもらっています。それはフィリピンのシンボルともなっているフィリピンワシが戻って

くる森をつくろう！ というものです。ワシは森の生態系ピラミッドの頂点に立つ動物の一つで、生息するには動物の多様性に富んだ森が必要です。はげ山からのスタートでゴールは果てしなく遠いけれど、そのゴールの大切さと一緒に、夢を持って取り組むことの素晴らしさも教えてくれたと思っています。

昔、木を植えた子どもたちが今では親や教師となり、ふるさとを中心とした各地で子どもたちを育てています。さらには日本からもラブ・グリーンの会や甘木朝倉みどりの翼をはじめとした多くのボランティアの方がこの地を訪れCFPに協力しています。これからのCFPの展望は、これまでの約20年のCFPの歴史の中で育ってきた大勢の彼ら彼女らに、次の時代をつくらせていくために語ってもらいたいと思っています。

生物多様性を守りながら 生きる社会

お二人の話をまとめると、オイスカの「子供の森」計画は、生物多様性を育んでいくことができる子どもたちを育て、生物多様性を守りながら生きていくことのできる社会づくりを目指していると言えるでしょう。

これからは、CFPを通して育ってきた次の世代がどのように行動するかにかかっています。今年6月には、カンボジアなどのCFP新規参加国も含めた6カ国のCFPコーディネーターを集め、各国の情報共有、子どもたちへの指導技術の向上、相互間のネットワークの強化などを図りインドネシアで研修も行いました。^{*}CFPの歴史の中で育ってきた子どもたちや各国のコーディネーター、そして日本の支援者・協力者、世界中に広がる多くの人の力によって、これからも世界各地で多種多様な「子供の森」計画が開かれていくことが期待できます。すなわちそれは、世界中の生物多様性への大きな寄与となりうるでしょう。

COP10関連イベントにオイスカも参加します！

10月に名古屋で開催されるCOP10の関連イベントにオイスカも参加し、オイスカの国際協力や支援が自然環境の保全や地域の生態系、さらには生物多様性の保全に寄与してきたことを国内外に発信する予定です。関連イベントの詳細は下記の通りです。①と③のイベントに関しては、一般の方の参加が可能です。ぜひみなさまお誘い合わせのうえ、ご来場ください。

①COP10記念国際シンポジウム

「生命を育み、生命をつなぐ
地域と歩む 森づくり・ふるさとづくり」
日時：10月16日(土) 13:30~16:00
場所：豊田産業文化センター 小ホール

②COP10公式サイドイベント

「OISCA's Experience in Sustainable Development
with Agro-Ecosystems and Biological Diversity
Conservation」
日時：10月25日(月) 13:15~14:45
場所：名古屋国際会議場 イベントホール

③生物多様性交流フェア

(オイスカと「富士山の森づくり」推進協議会の合同出展)

日時：10月18日(月)~29日(金)
場所：名古屋国際会議場に隣接する白鳥公園・
エキスポゾーン

<生物多様性交流フェア内のイベントにも参加します>

●交流フェアステージ

場所：生物多様性交流フェア会場内、
熱田神宮公園・フェスティバルゾーン
日時：10月19日(火) 15:00~16:00

●交流フェアフォーラム

場所：生物多様性交流フェア会場内、
名古屋学院大学体育館内・小会場1
日時：10月28日(木) 15:30~17:30

^{*}CFPコーディネーター研修の詳細はこちらよりご覧いただけます。
<http://www.oisca.org/news/?p=2099>